

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成27年6月18日 (2015.6.18)

【公表番号】特表2015-501344(P2015-501344A)

【公表日】平成27年1月15日 (2015.1.15)

【年通号数】公開・登録公報2015-003

【出願番号】特願2014-535914(P2014-535914)

【国際特許分類】

C 0 8 J 7/04 (2006.01)

B 3 2 B 27/36 (2006.01)

B 3 2 B 7/12 (2006.01)

C 0 9 J 7/02 (2006.01)

C 0 9 J 123/02 (2006.01)

C 0 9 J 171/12 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

H 0 1 L 31/049 (2014.01)

C 0 9 J 133/04 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 J 7/04 C F D E

B 3 2 B 27/36

B 3 2 B 7/12

C 0 9 J 7/02 Z

C 0 9 J 123/02

C 0 9 J 171/12

C 0 9 J 11/06

H 0 1 L 31/04 5 6 2

C 0 9 J 133/04

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年4月14日 (2015.4.14)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 7 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 7 7 】

実施例 1 :

硫酸バリウムが 18 % 添加された PET ペレットを一軸押出機に供給し、加熱、加圧により熔融した。この熔融体をスロットダイを介し、温度約 200℃ に保たれた製膜ロール上に押し出し、固化して非晶フィルムを得た。得られた非晶フィルムを、95℃、延伸比 3.6 : 1 で長手方向に延伸した。この一軸延伸フィルムを、コロナ処理装置 (Enercon Industries 社製) に通過させて、1.5 W / フィート²・分の出力でコロナ処理を行った。引き続き、長手方向に延伸したフィルムに対し、リヴァースグラヴィアコーティングロールを用いて、固形分 20 重量%の水分散液の塗布を行った。水分散液の固形分は、乾燥塗布層重量を基準として、50 重量%の Michem Prime 4983R (Michaelman 社製、エチレン - アクリル酸共重合体分散体) および 50 重量%の EPOCROS WS700 (日本触媒社製、日本、オキサゾリン架橋剤) から成っていた。長手方向延伸塗布フィルムは、更に約 100℃ で乾燥させ、次いで、延伸比 4.3 : 1 で横方向に延伸し、二軸延伸フィルムを得た。得られた二軸延伸フィルムは 23

0 で熱固定を行った。最終的なフィルムの厚みは250 μm であった。乾燥塗布層の厚さは、塗布組成物の固形含量、塗布厚み（乾燥前）および横方向延伸ファクターから計算し、55 nmであった。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0079

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0079】

実施例2：

硫酸バリウムが18%添加されたPETペレットを一軸押出機に供給し、加熱、加圧により溶融した。この溶融体をスロットダイを介し、温度約20 に保たれた製膜ロール上に押し出し、固化して非晶フィルムを得た。得られた非晶フィルムを、95 、延伸比3.6 : 1で長手方向に延伸した。この一軸延伸フィルムを、コロナ処理装置（Enercon Industries社製）に通過させて、1.5 W / フィート²・分の出力でコロナ処理を行った。引続き、長手方向に延伸したフィルムに対し、リヴァースグラヴィアコーティングロールを用いて、固形分20重量%の水分散液の塗布を行った。水分散液の固形分は、乾燥塗布層重量を基準として、50重量%のMiche Prime 4983R（Michelman社製、エチレン - アクリル酸共重合体分散体）および50重量%のEPOCROS WS700（日本触媒社製、日本、オキサゾリン架橋剤）から成っていた。長手方向延伸塗布フィルムは、更に約100 で乾燥させ、次いで、延伸比4.3 : 1で横方向に延伸し、二軸延伸フィルムを得た。得られた二軸延伸フィルムは230 で熱固定を行った。最終的なフィルムの厚みは125 μm であった。乾燥塗布層の厚さは、塗布組成物の固形含量、塗布厚み（乾燥前）および横方向延伸ファクターから計算し、55 nmであった。